

復興への拠点としての「仮設住宅」と「時限的市街地」

【主催】 日本建築学会 広域巨大災害と大震災に備える特別調査委員会

【日時】 2010年8月24日(火) 13:15~16:45

【場所】 建築会館会議室(東京都港区芝5-26-20)

【主旨】

切迫性が高まっている広域巨大災害や大震災に対して、備えなければならない課題は山積している。そのひとつに、応急仮設住宅や時限的市街地という、都市復興と住宅再建に向かう足がかりをどう形成していくのか、復興の進め方が問われている。「時限的市街地」とは、東京都震災復興マニュアルで打ち出している考え方で、地域ぐるみで復興まちづくりに取り組むために被災市街地に地域住民らが留まる必要があり、そのためにさまざま仮設住宅や仮設店舗等を復興すべき「まち」に時限的に建設し、同時に被災建物も応急修理して活用していく、いわば本格復興に向かうための「仮設のまち」である。

8月23日~27日まで日本建築学会ギャラリーで写真展「仮設のまちに生きる—大震災からの復興拠点としての仮設市街地—」(主催:仮設市街地研究会、後援:日本建築学会・他)が開催される。この期に合わせて、表記のテーマで「広域巨大災害と大震災に備える特別調査委員会」の第1回公開研究会を開催する。

阪神・淡路大震災以降、応急仮設住宅の取り組みなど質的に向上してきているものの、首都直下地震のような大震災や、東海地震、東南海・南海地震のような広域巨大災害には、仮設住宅問題はどのような対応が可能なのか。どのように仮設から復興に展開していくことが求められているのか。そのためにはどのような事前準備をし、備えねばならないのかを、議論する。

【プログラム】

- 総合司会 根上彰生(日本大学教授、広域巨大災害と大震災に備える特別調査委員会委員)
- 主旨説明 中林一樹(首都大学東京教授、広域巨大災害と大震災に備える特別調査委員会委員長)
「最近の地震災害と巨大地震災害との違いは何か」
- 報告者 松川淳子(仮設市街地研究会、(株)生活構造研究所取締役特別顧問)
「写真展「仮設のまちに生きる」から伝えたいこと」
平瀬隆治((社)プレハブ建築協会第一事業部長)
「最近の災害における応急仮設住宅と首都直下地震時の課題」
溝口裕昭(東京都総務局総合防災部情報統括担当課長)
「東京都震災復興マニュアルについて」
佐藤隆雄((独)防災科学技術研究所客員研究員、東京経済大学講師)
「東京の復興における時限的市街地の可能性と限界」
- 討論 報告者及び参加者

【参加費】 会員:1,500円 会員外:2,000円 学生:1,000円

【定員】 70名

【申込方法】 FAXまたはe-mailにて催物名称・会員番号・氏名・勤務先・電話番号・e-mailアドレスを明記の上お申込みください。

【申込み・問合せ】 日本建築学会事務局総務グループ 斉藤・小野寺

e-mail: a.saito@aij.or.jp TEL03-3456-2051 FAX03-3456-2058